

厚生福祉

時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2017
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

連載	2
農福連携の可能性	
第2回 農福連携の広がる背景	
スコープ	5
テレワークに期待する	
特集1	6
温泉療養のまちづくり	
炭酸泉を健康づくりに	
中央省庁ニュース	8
食品リコール、報告制へ＝健康食品への規制も／量と質、両面の充実を＝放課後児童クラブで検討会 ほか	
進言	9
特集2	10
外国人労働者の雇用に関する基礎と実務(上)	
地域を支える(島根県)	13
私たちの工夫	14
学会・医療情報	15
事件・事故・裁判	16
ニュース	17
施設での虐待後絶たず	
ニュースフラッシュ	18
子育て支援で連携協定／高校向けに給付型奨学金 ほか	

コバケンとその仲間たち オーケストラ

炎の指揮者と言われるマエストロ小林研一郎さんは、知的障がいを持つためにコンサートを聴きに行く機会の少ない人たちのためのオーケストラ演奏会を10年以上前から全国で行っている。このオーケストラは、支え合うことで「すべての人々が与えられた命を輝いて活きることが出来る社会」づくりを目的としている。

この情報を得てから、岐阜県でも実現できないかと思うようになり、ついに県やホールの力添えで実現にこぎ着けた。

10月15日は満席のホールが感動と涙で揺れた。会場には障がいを持つ多くの人々が招待され、舞台上も盲目の奏者や普段は別の仕事を持つ奏者、

社会福祉法人新生会
 名誉理事 社長 石原美智子



海外に住む奏者などで溢れんばかり。その上、元の高校の吹奏楽や太鼓も参加して、パイプオルガンの脇までぎっしりである。

地元の高校生には多分、メンバーの誰かが事前指導したと思うが、リハーサル時のマエストロは、プロの前で自信なさげな高校生に対して「まず姿勢を直し、テクニクを超えて心で歌うように、目をつぶって演奏して」などと声を掛ける。2度、3度と演奏するうちに、高校生の管楽器の音がみるみる変わってくる。決して声を荒らげることなく笑いを交えながら指示を出し、持ち上げ、最後に必ず「ありがとう」と言って自信を持たせる。

本番の彼らの管からは実に力強い音が出て、ホ

ールに響き渡ったのである。太鼓の学生たちも、耳の聞こえない奏者とともに力いっぱい太鼓をたたく。この学生たちにとってマエストロの指導はきつと人生の大きな宝になったことだろう。人を動かすことは、我々の分野でも同じことである。スタッフ同士、利用者、家族、地域の人々、常に人間関係である。オーケストラは小さな社会。私たちのスタッフもお揃いのTシャツを着て生き生きと裏方ボランティアに汗をかきながら、専門集団に接する生きた研修となる。

共に支え合って会場いっぱい大きなエネルギーになり、最後はスタンディングオベーションで全員が心一つにしたのである。

福祉分野の仕事をしている者として冥利に尽きる一日であった。